



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.65 (2020.10.30)



新型コロナウイルス 感染防止とオンライン化への緊急対応

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、突然、世界規模で平時とは大きく異なる状況に陥りました。語学センターでは刻々と変化する状況の中、前期から主に以下のような対応をしています。

- ・貸し出しノートパソコンの提供（404A、404B、408 教室分 106 台）
- ・外国語担当非常勤教員のオンライン授業支援
- ・対面授業支援（授業録画など）とオンライン授業受講支援
- ・雑誌郵送貸し出し対応
- ・ランゲージチューターのオンライン化と実施 など

ノートパソコンは語学センター教室システム用設定になっているため、センター外でできるように急ぎよ、設定変更をして運用しています。ノートパソコン、デスクトップパソコン共に、感染防止のため、ヘッドセットは一時的に使用停止となっています。

また、今年度の短期語学留学については、予定していた全5プログラムの実施を見送っています。

目次

新型コロナウイルス

感染防止とオンライン化への緊急対応

「コロナ禍での語学センターの取り組み」

語学センター長・国際学部教授 李 在鎬……	1
英語の「課外インテンシブ」を受講する意味	
国際学部教授 青木信之……	2
コロナ禍におけるフランス語の対面型授業について	
国際学部准教授 大場静枝……	2
“かかわることば”を教える、学ぶ	
国際学部講師 小口悠紀子……	3
今年度のランゲージチューターは、	
Teams でオンライン・レッスン！……	3
新入生対象イベント報告……	4
おうち DE 映画、外国語検定オンライン化 他……	4

コロナ禍での語学センターの取り組み

語学センター長・国際学部教授 李 在鎬



図書館・語学センター棟入口
貸し出しノートパソコン開始時の受付
(現在は、本部棟内で受付)

語学センター長の李在鎬です。語学センターの利用者の皆様は新型コロナウィルスの世界的な拡散により、大変な思いをされているかと思います。しかし、コロナにも負けず「今できること」をいろいろと模索していらっしゃるのではないかと思います。

語学センターも利用者の安全確保のため、施設利用を一部制限せざるを得ませんでした。全学方針に従い、5月7日より自習室を臨時休館としましたが、6月29日には登校届提出の上で自習室を開放しました。7月13日以降は、3密回避を図りつつ、完全開放（登校届不要）に漕ぎ着けました。

また、短期語学留学事業においては、2020年夏季に催行予定でありましたアメリカハワイ大学、フランスオレアン大学、中国西南大学、ロシアモスクワ国立大学、韓国慶北国立大学への派遣事業を全て見送ることとなり、支援業務を担当する語学センターとしても大変残念な思いをいたしました。

一方で、全学方針の範囲の中で、コロナ禍でも提供できるサービスはないか、語学センター一同知恵を絞ってまいりました。その内、いくつかの取り組みの例を紹介したいと思います。

第一に、全学からの要請を受け、オンライン授業の支援業務に臨みました。5月11日より、原則オンラインによる授業開始の全学方針に伴い、語学センターは、ノートパソコンを設定変更の上、貸し出しを行いました。

第二に、資料の閲覧や貸し出しにおいても、3密回避のため、6月2日より郵送による語学学習雑誌の貸し出しを開始し、8月31日までに9名（18冊）の利用がありました。件数は多くないですが、この制度を利用していただいた方がいらっしゃったことに我々は嬉しく思っております。



405 教室オンライン授業
(TOLSTOYUZOV Sergey 非常勤講師)

第三に、ランゲージチューター制度においては、早い時期からオンライン化を図ることができました。6月12～23日 オンラインによるランゲージチューターとチューティーを募集し、8月31日時点でそれぞれ38名ずつ参加していただきました。6月29日にはオンライン・ランゲージチューターが本格稼働し、8月31日時点までに144.25時間の利用実績がありましたが、これは例年の実績と比べても引けを取らない水準であります。

最後に、パンデミックの中でもオンライン会議などを駆使し、第二期機器更新のための検討と諸手続きを予定通り順調に遂行してきました。

語学センターは皆さんと一緒に「今できること」を考え抜いていきたいと思っています。今後も語学センターからの便りを楽しみにしてください。



403A 教室入口 手指消毒コーナー
エレベーターホール、各教室にも消毒液を設置

英語の「課外インテンシブ」を受講する意味

国際学部 教授 青木 信之



コロナ感染対策のため自由な外出もままならない今は、ある意味、集中して自分をしっかりと鍛える良い機会かもしれません。夏季休暇期間中、例年と同じく「課外インテンシブ」という英語学習プログラムを実施しました。これは学部の「CALL 英語集中」や「英語 e ラーニング」と同様、e ラーニングで英語を学習するというものですが、通常の学期プログラムと異なり、徹底的に耳だけを鍛えるリスニングプログラムや、読解力を集中的に強化するリーディングプログラムなど、それぞれの技能に特化したプログラムも合わせて実施しているのが特徴です。

こうした新しいプログラムを導入する以前は、大体 40 人程度の受講希望者でしたが、新しいプログラム導入後かなり増え、100 名を超える人数の学生が受講するようになりました。このプログラムを実施している側からすると、非常に素晴らしいことと思っています。というのも、単に夏休みにも英語を勉強しているからということではなく、「休止期間を入れず、前期に続けて英語を勉強している」ということが素晴らしいことだからです。

英語に限らず外国語能力は、少し乱暴に言えば、ピアノやテニスと同じようなスキルです。ピアノやテニスでも、しばらくやっていないと指が動かない、うまくボールに当たらないということがよく起きますが、英語など外国語能力も同じスキルであるかぎり、一旦ある程度のレベルに達しても、学習をストップするとその能力は落ちていきます。しばらく英語を話さないと、スムーズに英語が口から出てこなくなるという経験は誰にもあります。この能力が低下するということは、日々英語を勉強している学生はもちろん、教えている教師にとってもあまりうれしくない「不都合な真実」ですから、あまりおおっぴらに誰も言わないのかもしれませんが、実は外国語能力がスキルである限り、宿命的につきまとう事実です。

ということは、せっかく学期中に頑張って学習し英語力を上げて、長い夏季休暇や春季休暇中になにもやらなければ、下りのエスカレーターを歩いているように、知らない間に元の階に戻っていることがあるわけです。一度、調査をしたことがあります。夏季休暇が終わったあとの 10 月に TOEIC を実施し、夏季休暇直前の TOEIC と比較したところ、学期中の TOEIC の伸びをほとんど無効にするくらいの低下

がみられました。

しかし、このことは逆にいえば、詰めてやること、集中的に学習することの効果は大きいとも言えるわけです。大量の学習（練習）を集中的に詰めてやることの効果は、実は誰でも知っています。例えば、中学校でバレー部であるとか、なんらかのクラブに入ります。入った当初は皆素人ですが、それから 2 年間ほぼ週に 5 日以上 2 時間程度練習していくと、3 年生では圧倒的な経験者となり、クラス対抗大会などでバレー部所属者が 2 人いればそのクラスは優勝してしまうほどです。つまり、たった 2 年ですが大量に詰めて練習するというのは、それほどの差を生むわけです。

もちろん、外国語学習がすべてピアノ、テニス、バレーボールと共通というのは乱暴な話で、外国語を使うには当然語彙や文法だけでなく、背景にある文化や様々な知識が必要です。しかし、一方でスキルであるという側面をみた場合、それはかならず身体が自動的に動くように、つまり処理能力を向上させるような訓練が必要なのです。それが大量に集中的にやることの意味です。現在の英語教育では、かつての「行動主義心理学」を連想させるせいか、訓練とか、集中的にとか、反復とか、根性とか、こういったキーワードは好まれず、意味のあるやりとりとか、コミュニケーションとか、コミュニケーションを図ろうとする態度とか、そういう言葉に置き換えられますが、それだけではスキルを身に付けることの本質を学習者に見誤らせてしまうように、私自身は感じています。

コロナ禍で行動の自由が大きく制限されているなかで、「課外インテンシブ」で多くの学生がスキルを磨き、自分を鍛えるために時間を使いました。自分を徹底的に鍛えるための時間は、長い休暇のある学生時代でないといえるのは難しく、一旦社会にでてしまうと相当意志が強いと続けることができません。ぜひ彼らの夏休みが有意義なものとなったことを願うとともに、またこれを読んだ皆さんの受講を期待しています。もちろん、学期中の e ラーニングにもしっかりと取り組んでほしいと願っています（笑）。



学習画面（一般プログラム）

対面授業

コロナ禍におけるフランス語の対面型授業について

国際学部 准教授 大場 静枝



408 教室授業（大場准教授）

コロナ感染症の第一波が収まった 6 月 9 日から、フランス語は本学の語学の授業の中で唯一対面型授業に切り替わりました。フランス語を対面型授業に移行させるにあたり、

フランス人教員と何

度も検討を重ねた結果、フランス語の学修を保証するためには対面型授業しかないという結論に至りました。その理由は、フランス語の授業がフランス製の会話用教科書を使って、フランス語でフランス語を学ぶという方式で、学生の発話を主体とした授業を行っているからです。

第一波が収まったとはいえ、近い将来に第二波が襲ってくることは当然予測できましたので、感染症予防を徹底して行うことが対面型授業では重要になると考えました。そこで大学が定めた登校届けや登校に際してのルールとは別に、「語学センター及び教育研究支援グループの協力を得て、「語学センター内で私語を慎む」「授業後は速やかに帰宅する」「4 階のエレベーターホールで手指を消毒する」などの注意事項を周知徹底しました。また、教員と学生が使用するマーカやイレーザを分け、学生用のもの

は授業の前後でアルコール消毒を行いました。

体調の良くない学生には、授業への参加を断念すること、必ず欠席当日に教員に連絡することを義務づけました。また、連絡システムを一元化し、すべての体調不良による欠席連絡に対して教員及び事務スタッフからコロナ感染症の場合の対応を指示しました。さらに、欠席者のために、授業はすべて録画配信してオンデマンドでの受講を可能にしました。

しかしながら、3 クラスのうちの 2 つが 27 人の履修登録者を抱え、フランス人教員には高齢の者もあり、万一にもフランス語の授業からクラスターを発生させたら大変な事態になると、フランス語教員全員が緊張の絶えない日々を送りました。8 月 18 日に最後の定期試験を終え、クラスターを発生させることなく前期を無事に終了することができたのは、学生たちのルールを守る生真面目な態度と、そして何よりもスタッフの協力があつたからだと思っています。この紙面を借りて、関係者の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

404AB 教室授業
(GLAVIER Frank 非常勤講師)

ミニコラム 外国語に想う【51】

“かかわることば”を教える、学ぶ

国際学部 講師
小口 悠紀子

1歳半を迎えた息子が初めて発した言葉は「どうぞ」でした。「ワンワン」や「マンマ」というモノを示す言葉ではなく「どうぞ」。他者と「かかわることば」です。

日本語の授業で、私が学習者たちに最初に教えるのも「ありがとうございます」「お願いします」などの“かかわることば”です。私たちはこの社会で、人とかかわらなければ生きていくことができません。

私は、トルコや韓国、フィリピン、マレーシアなどで日本語を教えてきましたが、滞在中は現地の人から随分と助けてもらいました。マレーシアでは旅先から帰るバスが急遽キャンセルになり、地元の人と一緒に通るバスの手を振って、助けを求めたことがあります。家の鍵を失くした時や、大雨で部屋が浸水した時は、近所の家でイスラム式の食事をいただき、数泊お世話になりました。“かかわることば”を使えたから、現地の人々の優しさに触れ、生き延びられたといっても過言ではありません。こうした経験から、日本語教師は、ただ言葉の形と意味を教える仕事ではなく、学習者たちが他者と共に生きる中で、自分のやりたいことを実現していく過程を支援する仕事だと思ふようになりました。

ところで、皆さんはランゲージチューターという制度をご存知でしょうか。広島市立大学の言語を学びたい人と教えたい人がそれぞれ登録をして、日時を決めてレッスンをします（今年度はTeams使用）。6月に日本語チューター希望者向けのガイダンスを行いました。そこでは、「ガイジン」「ハーフ」など、私たちが日頃何気なく使っている言葉に傷つく人がいること、「は」と「が」の違い」「せつかく」と「わざわざ」の違いなどを、留学生にどう説明するのか、というお話をしました。参加者の多くが、「日本語だから難しい」を実感する機会になったようです。日本語を話せることと説明できることは、大きく異なるからです。興味がある人は、ぜひランゲージチューターや日本語学日本語教育学の授業に参加してみてください。日本語の深さ、楽しさにハマると、世界の見え方が変わってきますよ！



今年度のランゲージチューターは、Teamsでオンライン・レッスン！

今年度前期は、授業開始の延期に伴い、ランゲージチューターの募集を一時見送ることを余儀なくされましたが、6月に入ってオンラインでの実施を決定し、トライアル実施の後、6月29日から本格的に開始しました。昨年度まではランゲージチューターとチューティー（教えてもらう人）を常時受付していましたが、今年度から各学期始めの定期募集に切り替えています。レッスン希望者が自分の都合に合うチューターを見つけやすいように、各チューターが担当する言語やレッスン可能日時などの基本情報を学内限定ホームページで公開し、申請もウェブフォームでの受付に変更しました。

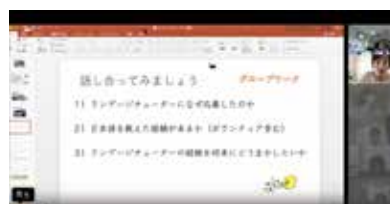
昨年度までランゲージラウンジで対面で実施していたレッスンからオンラインでのレッスンへの転換でしたが、どのペア（チューターが2名のグループもあります）もスムーズにレッスンを開始できたようです。チューター人数の少ない英語、フランス語、ハンガールでは、チューターが1人で4～6名のチューティーを担当したり、他言語のレッスンも受け持つなど、大活躍でした。



前期のレッスン言語は、日本語、中国語、ハンガール（写真上左）、英語（写真上中、上右、下右）、フランス語（写真下左）、ドイツ語。後期は、残念ながら新型コロナウイルスの影響で、特別聴講生の在籍がありませんが、インドネシア語やアラビア語のような希少言語のチューターも参加しています。後期も引き続きTeamsでのオンラインレッスンですが、ぜひ、どんどんご利用ください！

Teamsのレッスン予定画面

日本語ランゲージチューター対象



ZOOMのガイダンス風景

日本語ガイダンスを開始！

今年度から、日本語ランゲージチューターは、ガイダンス受講が必須となりました。

6月24日（水）3限に、国際学部の小口悠紀子先生（上部コラム参照）が、日本語登録チューター対象のガイダンスをZOOMで行い、18名が参加しました。欠席者4名は後日オンデマンド受講し、合計22名が受講しました。

チューターをしたり、外国人との交流をする上で留意・配慮する点や、日本語の教え方のポイントについて確認し、グループで意見交換をしました。

新入生対象 イベント

語学センターガイダンス、三学部合同オリエンテーリング、廊下ギャラリー写真展



ZOOM 画面

5月19日(火)4限に、国際学部新入生を対象とした語学センターガイダンスをZOOMで実施しました。李在鎬語学センター長から語学センター概要説明後、青木信之語学センター運営委員より、「大学をフルに活用して、外国語を身に着けよう!」と題してのお話があり、その後、スタッフより、語学センターの施設・利用紹介をしました。

年度始め定例の新入生を対象とした三学部合同オリエンテーリングは後期直前の9月25日(金)に実施されました。語学センターの見学ポイントは、ランゲージラウンジと自習室でしたが、新入生のみなさんの初々しさが印象的でした。

感染防止のために席数の制限はありますが、自習室や教材の利用はできますので、ぜひ外国語学習のためにご活用ください。



ランゲージラウンジ



廊下ギャラリー



自習室

「2019年度に実施された海外短期語学留学、海外交流プログラム、海外大学からの学生受入・交流時の総括写真展」は、12月21日まで。オンライン写真展も同時開催中!



2020年度 前期 いちだい知のトライアスロン

おうち DE 映画



毎年6月と12月に「映画上映会」を開催しています。今期は上映会に代わり「おうち DE 映画」と題して、2015・2017・2019年に国際学部講義「多文化共生入門」ご担当のヴェール先生・柿木先生・田浪先生に推薦していただいた映画を、再度紹介しました。図書館で借りられる映画も紹介し、家での映画鑑賞を勧めました。

期間 : 6月25日(木)～8月20日(木)

紹介作品 : 「白いリボン」「歓待」「プレシャス」他 全18作品



コロナ禍で加速

外国語検定のオンライン化



コロナ禍により、一般に実施されている外国語検定試験も大きな影響を受け、実施の延期や人数制限など様々な対応がされています。また、各種試験のオンライン化の波も重なり、会場での集合型受験だけでなく、オンラインで自宅受験ができる検定もあります。刻々と情報が変化しますので、受験希望者は各検定のホームページをこまめにチェックし、自分のニーズに見合うテストを受験できるよう、積極的に情報収集をすることが必要です。

<主な英語検定の2020年10月現在の状況>

英検	パソコンで4技能受験ができる英検 CBT も実施。CBT は会場受験。
TOEIC	休止していた公開テストを9月より再開。受験は抽選による。
TOEFL	12月末まで自宅受験形式の Special Home Edition の受験が可能。リモート監視あり。
IELTS	パソコンで受験できる CD IELTS も実施開始。まだ東京のみでの実施。

毎年、語学センターで実施されている TOEIC の団体受験は、今年度これまでのところ、オンライン TOEIC のみが実施されています。個人受験の募集情報はいちばるで配信されています。受験者は、自分のイヤホンまたはヘッドセットの持参が必要です。

視察報告

10月1日 安芸高校 20名
10月2日 西城紫水高校 28名
10月6日 高水高校 PTA 12名



■今年度は感染対策のため、なるべく小グループに分かれていただき、短時間の見学内容となっています。英語 e ラーニング体験は、共有による接触を避けるため、ヘッドセットの使用をしないなど、一部制限があります。

発行日 2020年10月30日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194
広島市安佐南区大塚東 3-4-1
編集 堀本真由美、沖野佳代
Phone (082)830-1509 (内線: 6410)
Fax (082)830-1794
E-mail lang@m.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
<https://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

